

平成31年度入学生用カリキュラムマップ

【健康・スポーツ学科】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号											
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 態度・志向性	1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3
19JHSA1001	初期演習Ⅰ	1	本学で修得すべきことは何かを理解し、自主的に学び新たな発見を導きだせる力を身につけることを目的とする。このため、本学の「立学の精神」「教育目標」を知り、本学学生としての誇りと自覚を持つ。さらに、主体性・論理性・実行力を培い、女性として有為な社会人となるために、それぞれの学部学科の専門性に基づく知識と社会人基礎力の修得の必要性を理解し、各自のキャリアパスを自ら構築する。	短大の修学の基礎となる単位制を理解し、適切な履修計画に沿って修学する主体性、考える力を身につけ、所属学科の3つのポリシーに基づく専門教育の概要を把握し、自らのキャリアパスを組み立てる力を身につける。また、良識ある社会人となるための社会人基礎力の必要性を理解し、その基盤となる十分なコミュニケーション能力を培い、基本的な社会ルールを理解し、本学学生としての誇りと自覚を身につける。さらに、学習・研究を進める上での倫理の基礎となる情報の取り扱いに関する知識を身につける。	○	○					○	○	○		◎	○
19JHSA1002	初期演習Ⅱ(健康・スポーツ)	1	「初期演習Ⅰ」をさらに主体性・論理性・実行力を培い、学部・学科の教育目標を踏まえた実践力を高められるよう、その基礎的能力を身につけることを目的とする。	1. 女性として社会で活躍するための、キャリア形成の基礎を身につける。 2. 専門領域の実践的能力を培うための導入をはかり、その基礎を身につける。 3. 主体的に学び、実践する姿勢を身につけ、積極的に意見を発表・伝達するために、本を読み、自ら考え、文章表現するなどの基礎的な能力を養う。 4. 学生相互や担任教員との豊かで円滑な人間関係の基礎を築く。	○	○					○	○	○		◎	○
19JHSA1003	健康・スポーツ科学論	1	健康・スポーツに関する科学的アプローチは、研究手法によって細分化され多岐にわたる。スポーツ科学分野では、主として自然科学領域に焦点をあて、スポーツの科学的理解を中心に進める。 一方、健康科学分野では、健康に関連する諸問題について、歴史的な背景を理解し、今後の健康の維持・増進に対する展望について考えさせることをねらいとする。	スポーツ科学分野では、スポーツパフォーマンス発揮のために様々な身体機能や種々の要因が関与しており、それぞれの関わりをエビデンスに基づき学修するとともに、実際のスポーツ場面に活用していくための基礎的知識を理解することを目標とする。 健康科学分野では、健康の概念を理解するとともに自身の健康観をもってもらいたい。そのうえで、我が国の「国民健康づくり対策」の課題解決に何が重要なかを考え、そのために健康・スポーツ系の知識がどのような場面で活かせるのかを理解させる。	◎	○					○	○			○	○
19JHSA1004	スポーツの文化・歴史	1	本科目は次の3点によって、受講生自らが「スポーツのこれまでとこれからの考える」ことを目的とする。 ①スポーツの起源、発展・変容を学ぶ ②スポーツと文化の意味を理解する ③スポーツの文化的構造について考察する あわせて本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	本科目の履修によって、スポーツ文化を総合的に理解し、問題解決に取り組むことのできる能力をそなえた「考えるスポーツ人」になることを目指す。そのためには、スポーツに関わる基礎的な知識を基にして、自ら学ぶという姿勢のもとに習得された幅広い知識および分析視点によってスポーツにかかわるものごと全般に対し、批判的な思考を働かせて分析できるようにならねばならない。これは、「ただ否定(肯定)する」のではなく、「本当にそうなのだろうか？」と疑問を投げかけ、適切に取捨選択した知識や情報を根拠として、自らで判断することである。 よって、本科目における到達目標を「スポーツに関わる基礎的な知識の習得」および「スポーツについて、固定観念や固有の価値観にとらわれることなく、多様な視点から多面的に考えることができるようになる」ことに置く。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎	○					○	○			○	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号											
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性			
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2							
19JHSA1005	情報リテラシー	1	大学教育に適応し、安全で適切な情報活用ができるための基礎的な情報リテラシーを身につける。コンピュータやネットワークの知識、情報モラルの知識と実践力を育成するとともにオフィスソフトの活用をもとにしたレポート作成の基礎的な技能を確実に習得する。	本学のシステムやオンラインサービスを知り、使いこなすことができる。基礎的なコンピュータやネットワークに関する知識、情報モラルに関する知識をもち、場面に応じて安全にコンピュータやネットワークを活用することができる。レポートを作成するために必要なソフトの活用技能を習得し、課題に応じた簡単なレポート作成ができる。	○	○			○	○	◎			○		
19JHSA1006	英語会話Ⅰ	1	聴く、読む、書く技能を使いながら英語による発話能力を高めることを目的とする。	英語の基本的な文法事項などを復習し、コミュニケーション活動を通して基本的な会話が英語でできるようになることを目標とする。	○	○				◎	○				○	
19JHSA1007	英語会話Ⅱ	1	聴く、読む、書く技能を使いながら英語による発話能力を高めることを目的とする。	「英語会話Ⅰ」で身につけた基本的会話表現・スキルを応用し、さまざまな状況で英語による意思伝達ができるようになることを目標とする。	○	○				◎	○				○	
19JHSB1008	運動器の解剖と機能	1	体を構成する運動器の機能と役割を知ることにより、スポーツパフォーマンスの向上や、健康の保持増進に役立つ知識を得ることを目的とする。	体の構造に関する基本名称を学ぶことで、コーチ、トレーナーおよび医師が共通の言語でコミュニケーションをとることのできる環境構築を目標とする。	◎	○				○	○	○			○	
19JHSB1009	運動生理学	1	先進国社会では自動化、省力化、電気化による身体活動量の低下が、人間の健康に大きな影響をおよぼし社会問題となっている。そこで本講では運動やスポーツのもたらす身体活動が身体諸機能にどのような生理的变化をもたらすか学習する。本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。また、スポーツ指導者として、健康の維持・増進を目的としたインストラクターとしての専門的知識および技能等を修得することを目的とする。	運動生理学の基礎的な理論を理解し身体活動やトレーニングによる身体諸機能の変化について学ぶ。本科目は、教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探究する。また、スポーツ指導者として、健康の維持・増進を目的としたインストラクターとしての指導実践において、対象者の個々の体力の違い、年齢別、性差等の諸問題を考え、主体的に取り組むことができる専門的知識を修得することを目標とする。	◎	○				○	○	○			○	○
19JHSB1010	スポーツ心理学	1	体育・スポーツおよび健康づくり運動の指導および実践に関する心理学の専門知識を理解し、習得することを目的とする。本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	スポーツ心理学の基礎を学び、良好なスポーツ活動を推進するための心理学的アプローチに関する知識を習得する。また、現場で起こりうる様々な心理学的問題の背景を理解し、その解決策について考え実践できる能力の獲得を目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探究する。	◎	○				○	○	○			○	○
19JHSB1011	スポーツ運動学	1	スポーツ指導現場に必要な運動の見方・考え方を学ばせることにより、運動に関する理解を深めさせ、スキルの獲得とその獲得過程に関する質的評価ができるようにする。また、練習計画の立案ができるようにさせる。本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	スポーツを観察する方法を理解し、指導時に活用できるようになる。また、運動の質に関する理解が深まり、その良否に関しても適切な判断ができるようになる。運動が上手になる過程について理解し、適切な指導ができるようになる。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探究する。	◎	○				○	○	○			○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性				
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2						
19JHSB1012	体 育 原 理	1	<p>本科目の目的は「体育・スポーツとは何か」「なぜ体育・スポーツなのか」「体育・スポーツで何ができるのか」を考えることにある。「体育」について、同義語のように混同してとらえられる傾向にある「スポーツ」との相違点を明確にし、その意味と価値を学ぶことにより、「体育」と「スポーツ」の現代社会における存在理由および意義について哲学的に探求する。加えて、「体育」「スポーツ」をとりまく現代的な問題を取り上げ、根本的な問いの設定と哲学・倫理学的方法により、それらの問題について読み解いてゆく。</p> <p>あわせて本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。</p>	<p>「体育」と「スポーツ」についての課題を発見し、多面的な思考のアプローチによって自らの考えを導き、それを論理立てて説明できるようになることを目指す。</p> <p>具体的には次のようなスキル獲得を目標とする。</p> <p>保健体育科教員、スポーツコーチとして求められる基礎的な知識や考え方の習得</p> <p>社会の変化に対応できる柔軟な発想、行動のとれる能力の獲得</p> <p>自己の考えや判断を要領よくまとめ、それを言語化して説明できるスキルの養成</p> <p>「学ぶ習慣」と「社会の出来事に関心を持つ姿勢」の涵養</p> <p>教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。</p>	○	○				○	◎	○			○
19JHSB2013	ス ポ ー ツ 社 会 学	2	<p>本講義は次の目的のために開講する。</p> <p>現代社会におけるスポーツの役割・機能、社会的価値、あるいはスポーツの問題点などの分析を通して、スポーツ・体育の指導者として求められる深い知識を得る。</p> <p>知識をもとに、自分で問題を設定し、分析・解釈し、考え抜くという技術を得る。</p> <p>本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。</p>	<p>さまざまな時代や社会におけるスポーツの状況および歴史の変遷の過程、変化の理由などについての基本的な知識を習得する。その学習をとおして、社会の変化とスポーツの変化とを相関的に見る視点を養うと同時に、現代のスポーツに関わる諸問題について、歴史的な視点から考察することができるようにする。</p> <p>そして、現代のスポーツにおける課題や問題点、さらには今後のスポーツのあるべき姿についての自らの考えを持てるようにする。</p> <p>教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求すること。</p>	○	○				○	◎	○			○
19JHSB2014	ス ポ ー ツ 医 学	2	<p>わが国の社会現状を把握し運動による予防、介護予防について理解する。メディカルチェックの重要性を知り基準値、スポーツ医学的障害を理解する。機能解剖を理解する。学校や各種スポーツ活動で教育者としてのスポーツ医学の知識を体得する。</p>	<p>医学的見地からスポーツを理解する。心身ともに健康に配慮、考慮できるようになる。主だった傷病を理解する。外傷、障害の違いを学び、予防の方法を習得する。運動の促進、停止を理解する。</p>	◎	○				○	○	○			○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	
19JHSB2015	スポーツトレーニングの科学	2	トレーニング科学の基礎理解として、人間の身体の適応能力についての基礎知識を養うとともに、目的とする身体機能を高めるための具体的な方法を学び、科学的な身体トレーニングについての知識を深める。一つは、スポーツパフォーマンスを高めるための科学的研究成果と高度な実戦経験に基づく種々のトレーニング理論を理解することを通し、各種トレーニングや競技特性に関する理解を深めることである。一方で、健康・体力づくりのための適切な運動プログラムを構成する知識を深めることと共に、身体運動を生活に取り入れる能力を養い、健康を保持・増進していくための適切なトレーニング方法を身につける。これらの各種トレーニングに対する考え方や方法を学び、基本的なトレーニング計画の立案ができることを目指す。	トレーニングによる人間の身体の適応能力についての理解を深める。特に、競技者としての活動に役立たせることができるまで、また、健康・体力の維持増進に役立たせることができるまでの理解を深めることを目指す。さらに、指導者の立場でトレーニングの現場での合理的かつ総合的なトレーニング計画の立案、トレーニングの実際を分析・評価する能力を身につけ、課題を見出し、多種多様な課題に対しての創意工夫を試みることができるための資質の向上を目指す。	◎	○	○		○	○	○			○	
19JHSB2016	バイオメカニクス	2	バイオメカニクスとは、運動に関する生体系の構造や機能を力学の法則に照らして研究する応用学である。人間の身体運動に関して、運動と身体の関わり合いや動きのメカニズムを、力学・生理学・解剖学などの基礎知識を活用し、スポーツするからだへの新しい視点を持つことを目指す。歩行、走行、跳躍、投運動、打運動などについて、身体運動のしくみをよりよく理解すること。	スポーツにおけるパフォーマンスを向上させるために、力学的にどのような要因を改善することが必要なのか、思考できることを目標とする。受講生の運動・スポーツの「動きをみる目」が変わり、スポーツ指導の現場で活かしていることを期待する。	◎	○			○	○	○			○	
19JHSB2017	スポーツ栄養学	2	アスリートにおける体力の維持・競技成績の向上のために必要な基礎的栄養学知識を身につけ、さらにスポーツに特化した専門的栄養学を習得する。	栄養・食事に関する基本的な知識を身につけ、さらに、選手において特別に注意すべき栄養学上のポイントについて理解する。	◎	○			○	○	○			○	
19JHSB2018	公衆衛生学	2	公衆衛生学は「人間集団を種々の疾病から守り、健康の維持・増進を図り、その精神的肉体的能力を十分に発揮できるような環境にすること」を目的とした学問である。公衆衛生に関する広範囲に亘る事項について解説し、集団の健康を維持するための基本的知識や考え方を修得することを目的とする。本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	保健衛生や環境問題について幅広く知識を身につけて、国民の健康維持・増進のために適切な判断力のもとに指導できる基礎的な力を養うこと。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎	○			○	○	○			○	
19JHSB2019	発育発達・老化論	2	乳幼児期から高齢期に至るからだの発育発達と老化の過程を理解し、体育・スポーツの指導者として個々の状態に相応しい運動プログラムが提供できる能力を身につける。	学生が発育発達と老化の基本的な経時的、連続的過程とその重要性を理解する。	○	◎			○	○	○			○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号											
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性					
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2							
19JHSB1035	海外の健康・スポーツの研究	1	国際化が進むなかで海外での生活体験を通じ国際理解を深めると共に健康・スポーツ指導者としての自覚を高め真の国際人の育成を目的とする。	海外の文化に触れ生活様式を経験することで国際的知識や英語力を身につける。	○	○				○	○			◎		
19JHSB1036	実践英会話	1	経済・文化・芸術の最先端に行くアメリカ・ニューヨークにおいて、文化的背景が異なる全世界の同年代の人々と交流し、英語コミュニケーションを高めることで共に学び社会で使える実践的コミュニケーション能力を得る。	国際社会における他国籍の異文化の理解を深め、日常的な話題について生きたコミュニケーションができるようになる。	○	○				○	○			◎		
19JHSB1037	グローバルフィットネス	1	グローバル化の進展と共にリーダーシップが求められる時代において、芸術・文化・スポーツ・健康産業の最先端に行くニューヨークでその実情を視察や体験によって研修する。	最先端フィットネス事情や芸術文化などを大学およびフィットネスセンター・専門スタジオで他国の人と交流し、共に学習することで文化の違いによる言語・非言語コミュニケーションスタイルの多様性を理解し、対人コミュニケーション能力を身につける。	○	○			○	○	○	○			◎	
19JHSB1038	グローバルヘルスアンドキャリア	1	グローバル化の進展と共にリーダーシップが求められる時代において、ビジネスや健康・福祉産業を支えている企業や、それに関わり活躍する人との交流によって実社会で活躍するための心構えや身につけておくべきことを学ぶ。	自分の専門分野における海外の最新情報を現地で実際に体験し、知的刺激を受け、現在の日本事情を分析したうえで、自分にできることは何かを考え、卒業後の実社会で積極的に仕事に臨む態度を養う。	○	○			○	○	○	○			◎	
19JHSB1039	マリンスポーツ実習	1	アウトドアスポーツのひとつとして、マリンスポーツ実習は自然とのかかわりの中で自然に対する知識や実習の計画方法、事故防止策について学び、指導者として必要な身体活動・安全管理の基礎的な知識や技術を学習する。	自然の中で行われる実習の計画方法や健康管理を理解し、安全に実習することができる。	○	○	○	○	○	○	○	○		◎	○	○
19JHSB1040	スノースポーツ実習	1	(1) スポーツ指導者として必要なスキーの運動特性、技術、指導法を修得し、生涯スポーツとしてのスポーツの在り方を学習する。 (2) 自然に対する知識や事故の防止策等について学びながら、指導者として必要な計画立案・運営指導の能力を身につける。 (3) 団体生活・団体行動を通じて、その態度を養う。	(1) スポーツ指導者として必要なスキーの運動特性、技術、指導法の修得 (2) 生涯スポーツとしてのスキーに関する知識の修得 (3) 自然に対する知識やスキー・スノーボード事故の防止策の修得 (4) スキー実習の実施に必要な計画立案・運営指導能力の修得 団体生活・団体行動を通じて、規律ある態度および行動規範の修得 (5) 団体生活・団体行動を通じて、規律ある態度および行動規範の修得	○	○	○	○	○	○	○		◎	○	○	
19JHSB2041	キャンプ実習	2	キャンプの幅広い教育効果を理解するよう体験学習し、指導的立場からの企画立案を実習する。本実習の目的は、大自然の中での共同生活を通して、野外での諸活動を修得することである。	(1) 自然の中で集団的、自律的生活をすることによって自己を見つめ、真の協力・共同の生活を体験する。 (2) キャンプ生活の技術を学びつつ、諸活動（アクティビティ）を通して自分の体力や精神力を鍛える。 (3) 将来、キャンプを指導する立場に置かれたとき、計画立案することができ、運営指導ができる。	○	○	○	○	○	○	○		◎	○	○	
19JHSB2042	健康・スポーツ実践研究	2	健康・スポーツにおける実践的能力を身につけるためには、実践現場に即した実習や研究を必要とする。1年次に学んだ「初期演習Ⅰ・Ⅱ」をもとに、主体性・論理性・実行力を培い、応用的能力や実践的能力を高めることを目的とする。	健康・スポーツの実践現場の実情や問題点、その将来性など実践的に研究を行うことを目標とする。またキャリア形成と結びつけることを目標とする。	○	○				○	○	○			◎	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性				
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2						
19JHSB2101	学 校 保 健	2	学校における保健教育・保健管理を充実させるとともに、併せて体育実技を通して子ども達に健康の保持増進並びに学校安全に関連する実践力を身につけさせるために必要な専門的知識および技能を修得することを目的とする。 本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	学生は教員の立場で現代の子どもたちを取り巻く健康問題を理解するとともに、効果的な保健学習や保健指導法についての知識や考え方を身につける。さらに、学校が家庭や地域社会とどのような連携を保ちながら子どもたちの安全を確保すべきかを理解しなければならない。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎	○				○	○	○			○
19JHSB1102	器 械 運 動	1	1. 学校体育で取り扱われる器械運動領域について理解させる。 2. 学習指導要領で取り上げられている技を習得させる。 3. 運動観察力を高め、生徒の運動を評価できる能力を身につけさせる。 本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	学習指導要領に示されている「技」を取り上げ、その演技ができるようになる。また、段階指導法を学ぶことで、器械運動の練習方法の原則についても理解し、基本的な器械運動の「技」の指導が行えるようになる。授業内で成功体験をし、達成感を味わうことでスポーツの楽しさや価値を体感する。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
19JHSB1103	トラックアンドフィールド	1	本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 陸上競技は中学校教科体育で取り扱われる。自己の限界への挑戦や自己記録の更新を狙って技能を高め競技し、記録を更新したときの喜びや感動を得られるよう努力すること。さらに、安全に留意した進行方法、勝敗に対して公平・公正であり、正しく記録を測定する方法を習得することを一目的とする。	短距離、リレー、ハードル、走高跳、走幅跳、砲丸投、中長距離走に関する自己の実技能力を高めることを目指し、中学校教科体育に於いて十分な示範ができるだけの体力、技術を修得する。別途配布する記録表に基づき、各種目で基準となる記録を達成することをノルマとする。また、トラック種目では計時方法、フィールド種目では記録の計測方法を中心にルールを理解し、公正な記録会を運営できる知識を修得すること。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
19JHSB1104	バレーボール	1	6人制バレーボール、9人制バレーボール、ソフトバレーボール、ビーチバレーボールとして多くの国民に親しまれているバレーボール。将来指導者としての基本技能習得とゲームづくりについて学ぶ。 本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	まず、個人的な基本的技能については、自ら、指導者として見本が見せることのできる能力を最低限として習得する。また、ゲームを構成させるための組み立てや応用技術の習得、審判を含め競技会の運営能力を習得する。さらに、教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性		
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2					
19JHSB1105	バスケットボール	1	<p>本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。</p> <p>バスケットボールは、現在我が国で最も盛んなスポーツの一つであり、中学校および高等学校の保健体育科の中にゴール型球技として含まれる代表的なスポーツ種目である。</p> <p>この科目は、バスケットボールの基本的な技術・戦術の習得はもちろん、初心者に対する指導法、ゲームの審判法および運営法などを習得することを主な目的としている。</p>	<p>教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探究する。</p> <p><知識・理解> バスケットボールの基礎知識 ルールと審判法の理解 初心者指導における留意点の理解 ゴール型球技における攻撃の原則の理解</p> <p><技能> バスケットボールの基本技術・基本戦術 審判法とゲームの運営法 初心者への指導法</p> <p><態度・指向性> チームワーク 積極的な「コツ」の受け渡し <総合的な学習経験と創造的思考力> グループの技術的課題や戦術的課題を、熟練者がリーダーとなりチームで解決する能力</p>	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○
19JHSB2106	ハンドボール	2	<p>本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。</p> <p>ハンドボールにおける指導法や審判法を習得することを目的とする。</p>	<p>「技術・戦術理論」 ボールを使ったコーディネーションスキル 様々なパス シュートの技術（主にジャンプシュート） 1対1の攻防スキル 攻撃におけるグループ戦術およびチーム戦術 防御におけるグループ戦術およびチーム戦術</p> <p>「指導理論」 ボールゲームにおけるウォーミングアップの方法論 ゲームを中心とした、減算式指導法の考え方 ハンドボールの技術指導の考え方、コツ</p> <p>教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探究する。</p>	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○
19JHSB2107	柔道	2	<p>本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。</p>	<p>科目修得時には、受身、投技（手技・腰技・足技）、固め技（抑え方・逃げ方）が身につくことを目標とする。</p> <p>教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探究する。</p>	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○
19JHSB2108	剣道	2	<p>本科目は、中学校教科保健体育における剣道分野を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。</p>	<p>日本独自の伝統文化である剣道を正しくとらえ、相手の人格を尊重し、心豊かな人間の育成のために礼法を重んじ、基本動作を習得させ、対人的技能の向上を図ると共に、互いが信頼できる人間関係を築かせるとともに、剣道を通して明朗で心豊かな人間の育成を目標とする。</p> <p>教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探究する。</p>	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性		
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2						
19JHSB1115	生徒指導・進路指導	1	1. 学校現場において、いじめ・不登校・暴力行為・学級崩壊など様々な問題が生起している実態や背景・原因等を知る。 2. 生徒指導の意義を正しく理解するとともに、生徒指導上の課題にいかに対応し得るかを主体的かつ具体的に考察する。 3. 進路指導上の課題と対応について考察する。	①生徒指導の意義と機能について理解する。 ②教育課程と生徒指導の関連を理解する。 ③生徒指導体制の重要性を理解する。 ④青年期の心理と発達の特徴を理解する。 ⑤生徒理解の方法を理解する。 ⑥進路指導の意義と方法を理解する。	○	○				○	○	◎		○	
19JHSB2116	教育相談の理論と方法	2	1. 教師に求められる同僚や保護者と協働できるコミュニケーション能力、自己表現力を、臨床心理学やカウンセリング事例等に基づき講じる。 2. 「聴く」力を養い、問題行動の持つ意味、予防方法、問題が生じた時、教師や保護者ができることについて学ぶ。	①学校教育における教育相談の重要性について理解を深め、学校教育において直面する多様な問題に適切に取り組むことができる。 ②教育相談の知識と基礎的能力を修得する。 ③自分の考え方や価値観を自覚し、コミュニケーション能力を身につける。	○	○			○	◎	○			○	
19JHSB1117	教育実習事前指導（中）	1	1. 中学校教育の意義や実際の教育活動について、実習校の実態を踏まえて総合的に学修する。 2. 教育実習の意義を理解する事前指導として、教職課程におけるこれまでの学びを踏まえ、中学校教諭としての必要な知識・技能・態度等を具体的に修得する。	①教育実習の意義を理解する。 ②教育実習に関する基本的な知識・技能・態度について学修する。 ③学習指導案作成の仕方を修得する。 ④学習指導案に基づき模擬授業を実施できる。 ⑤教育実習に臨む意欲を高める。	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○
19JHSB2118	教育実習事前事後指導（中）	2	1. 中学校教育の意義や実際の教育活動について、教師および生徒の実態を踏まえて総合的に学修する。 2. 教育実習の意義を理解する事前指導として、教職課程におけるこれまでの学びを踏まえ、中学校教諭としての必要な知識・技能・態度等を具体的に修得する。 3. 事後指導として、実習体験を振り返り自らの実践的課題を把握し中学校教諭への志を確認する。	①教育実習の意義を理解する。 ②教育実習に関する基本的な知識・技能・態度について学修する。 ③学習指導案作成の仕方を修得する。 ④学習指導案に基づき模擬授業を実施できる。 ⑤事前指導により教育実習に臨む意欲を高め、事後指導により教職への志を確立する。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎
19JHSB2119	教職実践演習（中）	2	1. 中学校教員の使命と役割、職務の内容を理解し、学校教育において教員に求められる実践力を最終確認し、補完指導を行う。 2. 学生自身が教育実習や学校ボランティアなどで経験した内容を伝え合い、意見を交流する中から問題意識を起こさせ、それを解決する姿勢を育成する。 3. 中学校当該教科の授業内容についての理解を確認し、授業構築の方法について実践の観点から検討し、授業運営の基本的な知見を身につける。	①中学校教員として高い教職倫理観を有している。 ②地域社会の人々から教員として信頼される対人関係を築くことができる。 ③生徒を臨床的に理解し、適切な理解を踏まえて、望ましい生徒指導および学級経営を展開することができる。 ④中学校教科を教授するに足る各専門分野の基礎的知識および技能を総合的に修得している。 ⑤自らが実施した専門教科の授業（模擬授業を含む）について自己評価を行い、これに他者評価を加えて、授業改善を行うための最小限の授業運営能力および態度を身につけている。	○	○			○	○	○	○	○	○	◎

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性			
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2					
19JHSB1207	ウォークアンドラン	1	現代社会においては、生活習慣病などの予防の観点から定期的な運動習慣を身につけることが必要不可欠な要素となっている。その運動のなかでも特に陸上運動は、人間の生存および生活にも大きく関与する機能である。陸上運動に代表されるウォーキングやジョギング・ランニングは、スポーツ基本法にある「いつでも、どこでも、誰でも」に該当する比較的日常生活に取り入れやすい有酸素運動の種目である。この授業では、ウォーキングやジョギング・ランニングの生理学的な効能の理解と安全で効果的な知識の習得を図ることとする。	①ウォーキングやジョギング・ランニングが持つ効果を理解できる。 ②年齢や健康状態に応じた種目の選定および運動強度の設定ができる。 ③運動前の健康チェックを的確に実施できる。 ④ウォーキングとジョギング・ランニングの身体への影響そして動作の違いを説明することができる。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
19JHSB1208	ユニバーサルトレーニング	1	健康・スポーツ領域に関する「トレーニング」に必要な知識を理解する。 科学的根拠に基づいたトレーニング指導に関する知識と実践力を養う。	各種トレーニングに関する目的、方法論、指導上のポイントを理解し、指導できるようになる。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
19JHSB2209	エアロビックダンス	2	健康・体力づくりを目的とした各種運動、エアロビックダンスエクササイズ等の指導において必要な技能を習得し、健康・運動実践指導者およびJafa（日本フィットネス協会）認定ADIのベーシックインストラクター資格取得のための実技指導力を養う。	<知識> エアロビックダンスエクササイズベーシックインストラクター（ADBI）の資格取得のために必要な実技理論や指導理論を習得する。 <実技指導> 実演能力～健康運動実践指導の陸上運動（エアロビックダンス）およびADBIの規定動作を正しい姿勢で行うことができる。 指導能力～参加者に動きや動き方を伝えることができる。（インストラクターとして、参加者を指示・指導を実施）	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
19JHSB2210	アクアエクササイズ	2	健康・体力づくりを目的としたアクアエクササイズについて、その特徴や運動内容、実施上の環境や注意点を理解する。また、基本動作、正しい身体の使い方や振り付け方法を習得した上で、目的に応じたプログラムの作成能力と実践力、および指導力を養う。	アクアエクササイズにおける基礎的な知識を理解した上で、正しいアライメントによる安全かつ効果的な動作の技術能力を獲得する。また対象者や目的に応じたプログラムの構成や指導法をグループワークにより習得する。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
19JHSB1211	フィットネス指導法	1	個々人の心身の状態に応じた、安全で効果的な運動について理解し、自ら見本を示せる実技能力と個人および集団に対する運動指導能力を身につける。また、運動継続を支援するコミュニケーション能力の獲得を目指す。	運動指導に必要な解剖学的知識、健康づくりを目的とした運動指導に関する方法論、運動指導に必要とされるコミュニケーションスキル、および運動継続を支援する動機づけスキルの修得を目標とする。	○	○	◎	○	○	◎	○	○	○	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性			
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2					
19JHSB1212	コーディネーション指導法	1	コーディネーション能力は、スポーツパフォーマンスの基盤になるもので、運動の巧みさを可能にする能力である。そして、発育発達の途上である子どもには、今後の豊かな運動能力を形成する上で必要不可欠である上に、筋力や持久力の低下する高齢者にとって転倒事故などのアクシデントを回避する広義の防衛体力といえる。 本授業では、コーディネーション能力を深く理解し、それをクライアントに適用していく方法について学修する。	7つのコーディネーション能力を把握し、それらを向上させる運動処方の理論と実際を修得することを目標とする。	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○
19JHSB1213	ボールプレイ指導法	1	プレ・ゴールデンエイジと呼ばれる4歳から8歳頃の子どものに適した「ボールを使ったボール遊び・ボール運動」の方法論を学び、実際の現場において、楽しく、安全に指導できる実践力を修得することを目的とする。	学生は、子どもを対象とした発育発達に応じた、ボール遊び・ボール運動における段階的な技術指導を修得する。また、指導現場を意識した模擬指導を行うことによって、実践的能力の向上を目指す。	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○
19JHSB1214	キッズ体操指導法	1	社会体育・民間スポーツクラブ等で幼児の運動遊びを通じて専門的知識に基づいた動きづくりの指導ができること。また、子どもを対象とした体操教室のプログラムを立案できること。	・発育発達に合った運動指導ができる。 ・安全管理ができる。 ・子どもの動きが理解できる。 ・段階指導を理解できる。	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○
19JHSB2215	リズムダンス指導法	2	現代の地域社会の中で行われているリズムダンスシステムのレッスン指導能力を身につける。ダンスの特性を生かした対象別(年齢・状況)の指導目的を理解する。ダンス指導者として基本技能の習得、指導計画の立案、実践応用の力を養うことを目的とする。	学生は、自己のダンス技能を高め、指導言語を習得する。基本的なステップや創作について理解した上で、クラス展開の立案とその内容を円滑に指導できるようにする。	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○
19JHSB2216	パラスポーツ指導法	2	障がい者は、スポーツを行うことにより、単に体力が向上するだけでなく、社会性などが増し、日常生活が向上する。障がい者とスポーツを結びつけるためのサポート技術が、スポーツ指導者には求められる。工夫された障がい者スポーツの種目を学び、そして実技を通して指導法を学習することを目的とする。	障がい者スポーツは特殊なスポーツではなく、工夫をすることによって成り立っている。障がい者スポーツの基本的な考え、構成、ルールを理解するために、実技を通して学ぶ。また、種目、障がいに応じての考え方、安全管理、指導法等を学ぶことによって、指導能力の向上を目標とする。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
19JHSB2217	エアロビックダンス指導法	2	エアロビックダンスエクササイズ等の指導において必要な技能の習得。Jafa（日本フィットネス教会）認定ADIのインストラクター上級資格取得のための実技指導を行う。	<知識> エアロビックダンスエクササイズベーシックインストラクター（ADBI）の上級資格取得のため、フィットネス概論、運動生理学、機能解剖学、スポーツ障害、エアロビクス、レジスタンス、ストレッチクラスの実技理論、指導力等を学ぶ。 <実技指導> 課題のプログラムを自ら作ることができる。 プログラム作成（3分間のエアロビクス、レジスタンス、ストレッチを作成する） 指導（インストラクターとして、より高い指導法で参加者を指導することができる）	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○